

戦後初期沖縄解放運動資料集 全3巻

表示価格は、全て税別

◎編集——加藤哲郎・森宣雄・烏山淳・国場幸太郎

◎ 概要 — A 4 判・上製・各巻平均 450 頁

◎構成及び配本 (注)配本は第2巻↓第3巻↓第1巻の順です

第1巻 米軍政下沖縄の人民党と社会運動（一九四七、五七年）

【編／解説】 鳥山淳・国場幸太郎

第1部 解説 (鳥山淳)

第2部 沖縄人民党ほか戦後初期沖縄政治史資料

第3部
『人民文化』
『世論週報』

第4部 米軍による沖縄社会運動監視資料（英文）

第5部 沖繩人民党・非法共產党弾圧関連記事

第2巻 沖繩の非法共產黨資料（一九五三～五七年）

【編／解説】加藤哲郎・国場幸太郎【

第1部

解説2 沖縄の非法共産党 資料研究案内 (国場幸太郎)

第2部 沖繩非合法共產黨關係資料（金澤幸雄氏所藏）

第3部 非合法共產党機関紙『民族の自由と独立のために』(渡慶次正一氏所蔵)

第3巻 沖縄非合法共產党と奄美・日本（一九四四～六三年）

【編／解説】森宣雄・国場幸太郎【

第1部 解説 (森宣雄)

第2部 沖繩・奄美統一戦線

第3部 沖縄非法共産党と日本共産党

第4部 日本共産党の沖縄対策

◎定価——各巻 本体価格28,000円＋税（全3巻揃価格84,000円＋税）

◎ 関連図書のご案内

琉球新報
【縮刷版】
解説
新崎盛暉

第1期全9巻 本体揃価格252,000円+税

うるま新報
【縮刷版】
解説
新崎盛暉・丹野喜久子

全6巻 本体揃価格168,000円+税

沖縄新民報・自由沖縄
【縮刷版】解説 新崎盛暉 全2巻
本体揃価格48,000円＋税

本体揃価格48,000円+税

戦後初期
沖縄解放運動資料集
全3巻

編集Ⅱ 加藤哲郎・森宣雄・鳥山淳・国場幸太郎

◎各卷構成

第1巻 米軍政下沖繩の人民党と社会運動（一九四七～五七年）

【編／解説】鳥山淳・国場幸太郎【】

第2卷 沖縄の非法共産党資料（一九五三～五七年）

【編／解説】加藤哲郎・国場幸太郎【

第3卷 沖縄・非法共産党と奄美・日本（一九四四～六三年）

【編／解説】森宣雄・国場幸太郎【】

◎概要——A4判・上製・各巻平均450頁

◎推薦
新崎盛暉（沖縄大学前学長）・富山一郎（大阪大学助教授）

◎定価 各巻 本体価格28,000円＋税（'04年11月より配本開始）

貴役員名簿
 一九四七年十月末現在
 (欠員)
 別當地見是尾川村高江四
 石川市一區五班
 玉城村親方家
 本郡町渡久地
 那加市壹角町二區三班
 糸備町三一九
 全溝町二區五班
 三和村名塚區
 糸備町二二二
 那加市壹角町二區三
 首里市山川町三一
 玉城村親方家
 浦崎康華
 屋部 忠思
 瀨長龜次郎
 兼次佐一
 東恩納寬敷
 新垣幸吉
 神山春櫻
 新垣幸吉
 伊敷香澄
 上里良徳
 東恩納寬敷
 新垣松助
 苦国策宜
 徳元八一
 瀨長龜次郎

★新たに発見された沖縄・奄美非法共産党関係資料の全貌！ 不二出版

不出版

〒113-0023 東京都文京区向丘一丁目二番一
TEL 〇三―三八―二四四三三
FAX 〇三―三八―二四四六四
振替 〇〇―一六〇―二一九四〇八四

《収録資料一覧》

第1巻 米軍政下沖縄の人民党と社会運動（一九四七～五七年）

編集解説 島山淳・国場幸太郎

■第1部 解説

■第2部 沖縄人民党は戦後初期沖縄政治史料

①陳情書 一九四七年九月一三日 沖縄人民党「陳情書1」（琉球政府文書） および「門奈直樹コレクション」

②沖縄人民党役員名簿 一九四七年十月末日現在（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

③（沖縄人民党綱領・政策・規約）（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

④沖縄人民党役員辞任に伴う名簿改定の件 一九四八年三月一五日（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑤沖縄人民党役員名簿（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑥政策・規約・スローガン（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑦沖縄人民党役員名簿 一九四八年八月二二日選任（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑧陳情書 一九四九年二月二二日 沖縄人民党中央常任委員会「沖縄人民政府当時の軍指令及一般文書5-15」（琉球政府文書）

⑨沖縄人民党役員名簿 一九四八年九月一一日承認（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑩綱領・政策（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑪沖縄人民党役員名簿 一九四九年五月一一日現在（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑫沖縄人民党 宣言・綱領・規約（草案）（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑬沖縄人民党の報告 一九四九年二月二二日（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑭人民党の役員調の報告 一九五〇年一月一六日（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑮人民党変遷略史 沖縄人民党（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑯人民党の報告 宣言・綱領・規約 第四回大会 一九五〇年八月一三日（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

⑰役員名簿 一九五一年二月 一般報告（組織並農民問題報告） 沖縄人民党第五回大会 沖縄人民党「比嘉春潮文庫」

⑱役員名簿に関する件 一九五二年二月二四日（琉球政府文書「沖縄人民党に関する綴」）

党役員及行動綱領一部改定に関する報告 一九五四年二月一五日 琉球人民党「琉球人民党に関する綴」（琉球政府文書）

沖縄第四回統一メーデー大会宣言ならびに決議集 一九五五年

（第七回大会での綱領・規約の改正と役員決定）一九五六年二月一五日 沖縄人民党中央委員会「一九五六年政変に関する書類」（琉球政府文書）

ブライス勧告についてアゼンハワー米大統領への公開状 一九五六年七月一八日 沖縄人民党拡大中央委員

（沖縄における労働事情 1956・7・26）一九五六年七月二六日

（人民党労働対策部方針案 一九五六年）一九五六年

沖縄人民党 第八回大会決定報告集 一九五六年十一月四日 沖縄人民党 林義巳資料

■第3部 「人民文化」・「世論週報」（人民党の実質的な機関誌）

「人民文化」創刊号（一九四九年六月、第二号）（一九五〇年二月、第五号）（一九五〇年四月、第六号）（一九五〇年五月、第八号）（一九五〇年八月）

「世論週報」特集号（一九五一年七月及び一九五二年一〇月、再刊第一号）（一九五三年六月）（第四号）（一九五三年八月）

■第4部 米軍による沖縄社会運動監視資料（英文）

■第5部 沖縄人民党・非合法共産党弾圧関連記事

「沖縄タイムス」一九五四年八月三一日～一九五五年八月二六日 掲載記事一〇点

「琉球新報」一九五五年八月一七日～同年八月二五日 掲載記事四点

第2巻 沖縄の非合法共産党資料（一九五三～五七年）

編集解説 加藤哲郎・国場幸太郎

■第1部 解説

■第2部 沖縄非合法共産党関係資料 金澤幸雄氏所蔵

1 党文書「琉球人民党改正綱領草案」一九五三年二月 琉球人民党大島地方委員会

2 党文書「自由党代議士平井義一に対する現地情勢の聴取」昭和二十八年二月一五日 第三衆議院会館

3 党文書「結成から現在まで 琉球における党の歩いて来た道」一九五四年一月二二日

4 党文書「琉球に於ける闘争に就いて」一九五四年二月中旬 党報告書 琉球G 大村 一九五四年三月一日

5 党文書「中村候補の各別得票及順位票」

6 党報告書「琉球問題懇話会結成」堀 三月一一日

7 党報告書「アメリカ占領支配の破壊をばくろした沖縄立法院総選挙」堀 三月二二日

8 党報告書「昭和製作所 月本次郎殿 南陽貿易 平良鉄男」第一一九号 三月二二日

9 党報告書「報告 四月一四日 田村」

11 党報告書「報告 四月二二日 田村」

12 党報告書 奄美地区委員会アカハタ分局長宛 アカハタ支部支局長 峠田重次

13 党報告書「派遣隊の各個人別収支明細書」

14 党報告書「報告書」喜界班 報告者 鹿兒島川島逸郎工

15 党文書「今後地区党の進む道」

16 党文書「出張報告」堀

17 党文書「報告 レンケツキ」堀

18 党文書「徳之島伊仙村阿権の古岡武二氏の土地闘争について」

19 党文書「現地党Vの方針 全人民大衆の力を結集して敵の狂暴な弾圧に総反撃せよ」

20 党文書「全国会議討論資料」

21 党文書「当面する闘いの方向」

22 党報告書「月刊報告その一 沖縄問題の発展」宮島 一月二六日

23 党報告書「月刊報告その二」宮島 一月二五日

24 党文書「工作を結ぶにあたって」

25 党報告書「関西琉球G総会報告書」茂岡 一九五五年三月三一日

26 党報告書 山元名

27 党報告書「現地の状況」一九五五年五月三〇日

28 党報告書「宮島様 報告 六月一七日 G」

29 党文書「新しい体制についての意見」琉球G指導部

30 党文書「昭和製作所 月本次郎殿 南陽貿易 平良鉄男 七月三一日」

31 党文書 国場幸太郎報告書

32 党文書「沖縄に於ける党建設上の誤りと欠陥について」資料「お願い」留学生神谷尚、国吉真栄、福地曠昭 再渡

33 党文書「党活動の総括」琉球中央G 白畑光敏 一九五五年一月一一日

34 党文書「質問と御願ひ」琉球中央G 白畑三蔵 中央常任幹部会御中 一九五五年一月一六日

35 党文書「討論のまとめ」琉球G指導部 一月一七日

36 党文書「琉球対策 高安様 二月一日 白畑三蔵」

37 党文書「沖縄返還国民運動の総括」一九五六年三月二五日

38 党文書「日本共産党奄美地区委員会 第一回地区党協議会一般報告」一九五六年四月

39 党文書「資料 戦後十年間における奄美の党の歩いた道」日本共産党奄美地区委員会

《収録資料一覧》

41 党文書「沖縄県人の組織について」一九五六年七月一九日 本津川地区市岡S 平良助次郎 中央委員会幹部会殿

42 党文書「三光社 川田信夫殿 うるま商會 宮城幸雄」

43 党文書「高安兄宛」九月二八日

44 党文書「各党の沖縄対策、アメリカの世界戦略と沖縄基地、沖縄解放の基本的課題」

45 活版新聞「基地沖繩」第一六号（昭和三十三年三月二二日）

46 党文書「沖縄返還運動の政治宣伝と組織化について（案）」一九五七年一〇月

47 活版書籍広告 那覇市長瀬長亀次郎序・沖縄問題調査会著「水攻めの沖縄」青木書店

■第3部 非合法共産党機関紙「民族の自由と独立のために」

第2号 「つよくなった国民の力、吉田内閣遂に総辞職、鳩山は保守合同への時かぞえ」

第3号 「モロトフ外相声明、日ソ関係正常化は両国の利益に一致」

第4号 「沖縄問題を一九五五年の平和運動のなかに、沖縄八十万同胞へ送る挨拶、平和ヨーゴ日本委員会から」

第5号 「バクロされた暴政沖縄の実態、沖縄を返せ、立ち上る八十万同胞」

第6号 「日ソ国交回復、ソ同盟政府正式に申入れ」

第7号 「総選挙終わる、民主勢力議席の三分の一をかくとく」

第8号 「鳩山内閣閣内閣戦争に協力、国会質問にこたえ再び基地提供を言明」

第9号 「日ソ交渉、鳩山内閣ひきのばす、選挙すんで態度急変」

第10号 「アジアはかわった、アジア・アフリカ会議成功裡に終る、国際緊張緩和と世界平和に貢献」

第3巻 沖縄非合法共産党と奄美・日本（一九四四～六三年）

編集解説 森宣雄・国場幸太郎

■第1部 解説

■第2部 沖縄・奄美統一戦線

一 林義巳関係資料

・インタビュー記録「林義巳氏が語る琉球人民党と沖縄・奄美統一戦線」

・林義巳氏所蔵沖縄・奄美非合法共産党関係資料

二 沖縄・奄美統一戦線運動とその後

・琉球人民党中央委員会「日本共産党創立三一周年を祝す」（加藤・水野資料）一九五三年七月五日

・琉球人民党中央委員会「日本共産党創立三一周年を祝す」（加藤・水野資料）一九五三年七月八日

・日本共産党九州地方委員会第三回地方委員会報告「オキナワ取り戻し運動について」（加藤・水野資料）一九五六年一月二五日

・霜多正次「沖縄」「新日本文学」一九五二年五月

・霜多正次「基地沖繩の労働者」「新日本文学」一九五三年八月

・霜多正次「孤島の人々」「新日本文学」一九五四年一月

・那覇市政再建同盟「島と人民裁判 真相はこうだ」一九五七年二月五日

・島義基「真相」自由と建設編集部 一九五八年二月一五日

■第3部 沖縄非合法共産党と日本共産党

一 国場幸太郎関係資料

・国場幸太郎インタビュー記録

・国場幸太郎「沖縄出身学徒の現況」『おきなわ』一卷二号、昭和二五（一九五〇）年五月

・国場幸太郎「沖縄の叫び」「新日本文学」一九五二年八月

・国場幸太郎「沖縄の叫び（続）」「新日本文学」一九五二年九月

・「琉球学生新聞号外」一九五二年九月二三日

・沖縄諸島祖国復帰国民大会「日本復帰国民大会ニュース」一九五三年三月一八日

二 沖縄解放論争資料

1 雑誌論文 牧瀬・国場論争

2 牧瀬恒二「沖縄における民族意識の形成と発展 戦後の沖縄史にそって」「思想」一九六一年一〇月号

3 国場幸太郎「沖縄とアメリカ帝国主義 経済政策を中心に」『経済論評』一九六一年一月号

4 成の問題に寄せて「思想」一九六二年八月号

5 牧瀬恒二「沖縄解放論」「思想」一九六二年八月号

6 森秀人「ひき裂かれた歴史 はげしく傾向的な史観 比嘉春潮・霜多正次・新里恵二著「沖縄」書評」一九六三年二月一一日（以降、資料18まで「日本読売新聞」より）

7 新里恵二「沖縄をどう考えるか 新沖縄論」を樹立せよ差別と偏見は日本社会の構造と不可分」二月二五日

8 森秀人「沖縄解放戦線の国籍 祖国復帰論者たちの批判に答える」四月一五日

9 新里恵二「無責任きわまる言いがかり 森秀人氏は琉球独立論者か」五月六日

10 森秀人「祖国復帰論と日本独占資本 祖国復帰論者 新里恵二への再反論」六月一〇日

11 新里恵二「琉球独立論者の『迷論』 輿と大言壮語の挑戦者・森秀人への批判」六月二四日

12 国場幸太郎「民族主義をどう評価するか 森・新里の沖縄解放論争を読んで」七月八日

13 新里恵二「米帝国主義の『免罪論』 沖縄解放闘争の方式をめぐる森・国場論の関連を論ず」七月二九日

14 国場幸太郎「沖縄解放論 新里氏の批判に答える 古典的植民地政策観の誤りに就いて」八月一一日

15 国場幸太郎「沖縄解放論 新里氏の批判に答える 2 アメリカの対沖縄政策の変遷 資本主義の全般的危機の深化と沖縄軍事基地」八月二六日

16 国場幸太郎「沖縄解放論 新里氏の批判に答える 3 アメリカ占領支配の矛盾の展開 民族分断の政策は振興ブルジョアジを日本資本主義との結合を強めた」九月二一日

17 国場幸太郎「沖縄解放論 新里氏の批判に答える 完日本独占資本の協力の根拠 アメリカ帝国主義の軍事政策そのものを打ち破る」九月一六日

18 新里恵二「なりそこないの構造改革論 国場幸太郎「沖縄解放論」への批判」一〇月七日

19 国場幸太郎「差別・偏見の再生産理論」の破産 新里沖縄解放論への最終的反論」一一月四日

■第4部 日本共産党の沖縄対策

一 基本方針文書

・一九四六年二月二四日 日本共産党第五回大会より沖縄人連盟全国大会へ「沖縄民族の独立を祝うメッセージ」（「アカハタ」一九四六年三月六日）

・「青年沖縄」第三号、一九四七年七月発行「沖縄問題座談会」一九四七年二月 日本共産党第六回大会綱領

・一九四八年八月二六日 日本共産党中央委員会「講和に対する基本方針」

・「平和と独立」一九五一年一〇月二七日 「沖縄、奄美大島、小笠原諸島の同胞に訴える」

・「アカハタ」一九五三年八月二七年「奄美大島の完全解放のために」

・「平和と独立」一九五四年四月一日「琉球対策を強化せよ」

・「平和と独立」一九五五年一月二七日「琉球の情勢について」

・一九五六年二月「前衛」高安重正「沖縄・小笠原の国民運動について」

二 日本共産党沖縄対策関係主要記事・論説（一九四五～五六年 日本共産党機関紙類より）

三 日本共産党沖縄対策関係記事目録（一九四五～五六年 日本共産党機関紙類より）